

中信高校山岳部かわらばん

編集責任者 大西 浩

池田工業高等学校

日山協 ジュニア情報交換会に触発されました

18、19の両日、日山協の諸会議に出席するため上京した。18日午後は海外登山研究会(海登研)、夕刻よりジュニア情報交換会、19日は評議員会と会議の3連チャン。

まずはジュニア情報交換会の話から。この会議は2009年2月に第1回目が開催されたが、その時は、傘木靖氏とともに長山協の代表として、「小学生を始めとする次世代をターゲットにした自然教育をどのように構築していったらよいか」という課題をもつての参加であった。傘木さんはその翌年から山岳総合センターの主事となり、同時に2010年からは長山協のジュニア委員長としてこの方面の普及に尽力されているのはご承知の通り。

さて、その交換会で僕も傘木さんも、まさに「目からうろこが落ちる」報告を聞き、翌年長山協としても何かできないかと動き出した経緯がある。その「目からうろこが落ちる」報告というのは、広島岳連の松島宏さんや今村みずほさんが行なっている「わんぱく登山部」の活動だった。そのことはかわらばん第295号(2009.2.19)に書き、その年の春、傘木さんは広島を訪ね、実際「わんぱく登山部」の活動を目にし、それを参考に長山協版「わんぱく登山部」を10月湯俣で実施(第325号/2009.10.14)したのだった。

新たなヒントがないかと3年ぶりに「ジュニア情報交換会」に出席した。今年度日山協にジュニア対象の補助金を申請したのは12都道府県とのことで、一時期より減少しているという報告があったが、そんな中、今回の報告は広島の「わんぱく登山部」のその後、福井「ワクワク福井の山探検隊」、岩手「ジュニア登山教室」、日山協「少年少女登山教室」の4本だった。どの報告も参考になった。

広島の実践は年数を重ねる中で、最初の子どもたちが中学生となり、中学部もできたということである。「わんぱく登山部」のコンセプトは一貫して「楽しい」と「好き」におき、広島岳連所属の社会人の山岳会や大学高校の山岳部と同列の位置づけをしているとの説明であった。主宰する松島さんによれば、ここに籍を置いた子どもたちが、松島さんや今村さんをはじめとする山好きの大人たちを自分たちの理想の姿として憧れ、やがては間違いなく高校山岳部、さらには山好きな大人へと繋がるという確信を得ているという話だった。松島さんらは「登山」を通して地域福祉の実現を目指すことを目的として、民間の登山研究機関「広島登山研究所」も立ち上げ、世代を超えた登山の普及啓蒙活動を行なっている。元高校教員でもある松島さんとは、会終了後の懇親会でも語り明かして、色々な話を聞くことができ有意義だった。

福井岳連の「ワクワク福井の山探検隊」は、ネーミングからして子ども心をくすぐる企画だ。「わんぱく」とか「わくわく・・・探検」のような表紙も、受け手・送り手双方の気持ちが通ずる第1歩だ。2年前から始まったこの教室は、テント生活、岩登り、沢登り、雪遊びなど我々山屋の得意分野を大いに活かした通年の自然体験教室であった。「あれはだめ、これはだめ」と言うことを言わず、やりたいようにやらせるという点では、広島とも共通していた。

岩手山協の実践は、岩手山をフィールドにした一泊の登山教室。岩手山の8合目の避

難小屋を県から任されて経営している山岳協会がその利便性を使い、親子登山を通じて山好きの子どもを増やそうという教室だった。山の素晴らしさを体験することで、やがてまた山に戻ってきて欲しいという願いが込められている。

日山協の報告は、一昨年の50周年記念行事として行なった「少年少女登山教室」を引き続き行なったというものだった。普及委員会とジュニア委員会が主催し、国立立山青少年自然の家と国立登山研修所を使って立山登山やクライミング体験などをも含む長期の登山教室である。

最後に、山と渓谷社の久保田賢次さんから2010年に同社が創設した「日本山岳遺産基金」の説明があり、その活用についての紹介があった。これは同社が創立80周年を機に、日本の美しい山を次世代につなげていく活動を支援する基金で、その活動の柱の一つに「次世代育成活動」もおかれているというものだ。安藤財団のトムソーヤ基金などとともに貴重な基金だと思う。大いに有効活用させてもらうとともに、この活動を支えていきたいものである。次世代育成、自然教育、言うは易しだが実践は難しい。しかし、見る前に飛べということばもある。目の前にいる子どもたちにとっていいことは何でもやってあげたいものだ、他県の素晴らしい活動に大いに刺激を受ける一夜であった。

長野版「こどものための自然教室」

ということで、各県の実践に学ばせてもらったが、長山協として今年のジュニア対象の教室をどう構築していくかについては、傘木さんが中心となって山岳総合センターの講座にも位置づけ、通年企画（下表参照）を目論んでいる。キャッチフレーズは「子ども達が、山の自然に親しみ、ふるさとをもっと好きになってほしい・・・『こどものための自然教室』に参加して、山で遊んじゃえ！！登るだけで楽しいのが山。でも山にはそれ以外の魅力もたくさん詰まっています。『山の自然』がわかれば、『山登り』がもっと楽しくなります。もっと心がときめきます。」というもの・・・で、「わんぱく」「わくわく・・・探検隊」に匹敵する魅力あるネーミングは来年の検討課題かな・・・。

こどものための自然教室(小学生が対象:各回20名募集 参加料金1500円程度)

講座番号	実施日	活動場所	タイトル	内容	歩行時間 その他
L1	6 / 10 (日)	霧ヶ峰	信州の山を知ろう	長野県のほぼ真ん中にある高原から、日本の屋根を見渡す 長野の山歩きはここからスタート	4時間
L2	7 / 21 (土)	鹿島槍ヶ岳 北股本谷	夏の雪渓で雪合戦	鹿島槍ヶ岳を眼前に臨みながら「北俣本谷」を雪渓末端まで登り、真夏の雪合戦を楽しむ	5時間 3年生以上
L3	10 / 7 (日)	高瀬川 湯 俣	湯俣で足湯に入ろう	高瀬ダムから片道10キロを歩いて湯俣へ 自分で温泉を掘って、足湯体験や温泉卵づくりをする	7時間 3年生以上
L4	10 / 28 (日)	美ヶ原	シカの食害と 猟師さんの話	猟師さんから話を聞き、野生生物との共存を考える どうしたら動物たちと一緒に暮らせるだろう	2時間
L5	3 / 23 (土)	旧大町スキー場	雪遊びと山の魅力	かつてスキー場だったところで思いっきり雪体験 雪国ならではの遊びを通して、山のエキスパートに挑戦だ！	雪遊び

センターではその他に通年で8回、県内の各地で動植物や地形・地質、景観や環境を観察したり体験したりという山の自然から学ぶ中学生以上対象の「信州山の自然楽講座」も企画をしています。これらについても機会を捉えて紹介したいと思っています。